

# いわいずみ

第179号

平成29年  
8月1日  
発行

ふるさと岩泉の  
**大家族**⑧

竹花和夫さん一家  
(巖綿地区)



**議会の新体制決まる…2**

**町の考えを問う（7議員が一般質問）…8**

**「議員と語る会」開催報告…16**

**表紙におせて**

巖綿地区の竹花和夫さん一家です。

竹花カノさん(手前中央)は今も現役で畑仕事をしている87歳。家族みんなが元気をもらっているといいます。



# 議会の新体制が決まる



議員改選後の初議会は5月10日に開かれました。4月の選挙で当選した議員14人全員が決意を新たに出席。議長や副議長の選挙、常任委員の選任などが行われ、新しい議会の体制を決めました。



**野館泰喜**  
副議長



**加藤久民**  
議長



各議員が投票を行うなどして、新たな体制が決まりました

## 加藤議員が議長に再任

**初** 議会では仮議席の指定から議長  
の選挙までの間、  
最年長の三田地和彦議員が、臨時に議長を務めました。

議長選挙は投票で行われ、加藤久民議員が9票、三田地和彦議員が5票で、加藤議員が当選しました。

この後に副議長の選挙が行われ、野館泰喜議員が9票、坂本昇議員が5票で、野館議員が副議長に当選しました。

## 一部事務組合等の議員を選出

**一** 部事務組合議会と広域連合議会の議員の選挙も投票で行われました。

その結果、岩手県沿岸知的障害児施設組合議会の議員に小松ひとみ議員が当選しました。

宮古地区広域行政組

合議会の議員には、合砂丈司議員、八重樫龍介議員、島山昌典議員の3人が当選しました。

また、岩手県後期高齢者医療広域連合議会の議員には、林崎寛次郎議員が当選しました。

## 常任委員会の新体制決まる

**議** 員の改選に伴い、新たに常任委員会の所属構成を決めました。

常任委員会は、議会の内部機関として、議案や請願などの審査、町民への議会報告、広報の発行等のほか町の事務調査などを行うことを目的として設置されています。総務常任委員会、産業常任委員会、広報広聴常任委員会の三つの委員会に、議長を除く全議員が所属しました。

また、議会運営委員会の構成も新たに決めました。

議会運営委員会は、





# 29年度318億円の事業執行へ

6月定例会は6月7日から9日まで3日間にわたり開かれました。一般質問では7人の議員が登壇し、台風第10号災害復旧・復興関連など町政や地域の抱える課題について論戦を展開しました。また、町長から提出された条例の制定・改正や補正予算は特別委員会を設けて集中審査。その結果、すべての議案を原案のとおり可決しました。

平成29年6月補正予算は災害復旧・復興関連、人件費の調整が主なもので、一般会計と簡易水道など3つの特別会計予算が提案、可決されました。そのうち、一般会計予算は63億円の減額となつていますが、これは平成29年度予算に計上していた農林水産施設・公共土木施設等災害復旧費77億円を平成28年度3月補正予算に組み入れたことから大幅な減額予算となったものです。

また、災害復旧・復興関連事業費を中心に約14億円が新たに盛り込まれました。さらに、平成28年度

28年度繰越明許費 178億円

災害復旧・復興を中心に14億円を増額補正



▲大型機械が配備され処理の効率化がはかられます



▶災害廃棄物の処理施設が稼働します(中里地区)

の繰越明許費として178億円が29年度に繰越されました。この主な要因は、平成28年度から始まっている災害復旧事業のほとんどが年度内に事業が完了しな

が完了しな

ためです。

したがって、6月時点の29年度一般会計予算額は、318億円となり、これまで経験したことのない膨大な予算規模となります。

まさに平成29年度は

復旧最初の年といえます。各復旧事業の早期完了を待ち望むところです。

(※) 歳出予算の経費のうち、年度内に予算執行が終わらず、翌年度に繰り越して使用する経費のこと。

# 台風災害復旧を推進

## 復旧・復興に向け 特別委員会を設置

**昨**年の8月30日に本町に襲来した台風第10号災害からの復旧・復興の進捗に関する調査をするために今回新たに特別委員会を設置しました。

今後、特別委員会を通じて復旧事業等の進捗状況を確認し、被災された皆さまの不安や疑問の解決に向け、最大限の努力をしていきます。



復旧状況を把握しながら必要な手立てを提言していきます

- 名称  
平成28年第10号豪雨災害復旧・復興推進調査特別委員会
- 委員の定数  
議長を除く全議員13人
- 選任された役員  
委員長 野館 泰喜  
副委員長 坂本 昇  
〃 三田地久志
- 調査の期限  
調査が終了するまでの期間

## 携帯電話用伝送路本復旧へ

工事請負契約締結に関する3議案と財産(動産)の取得に関する2議案を可決しました。主な内容は次のとおりです。

### 工事請負契約の締結

- 準用河川寄部沢川河川災害復旧工事
- ▽ 金額 9169万円
- ▽ 請負者 小野新建設(株)
- 準用河川救沢川河川災害復旧工事
- ▽ 金額 7830万円
- ▽ 請負者 小野新建設(株)

- 携帯電話用伝送路本復旧工事
- ▽ 金額 2億4084万円
- ▽ 請負者 (株)TTK(仙台市)
- 財産(動産)の取得
- 小本地域資源利活用施設初度管理用備品一式
- ▽ 金額 1090万円
- ▽ 契約相手 (有)岩泉マツカラー商会
- 除雪ドーザー(8ト級)
- ▽ 金額 1274万円
- ▽ 契約相手 日本キヤタピラー 宮古営業所



広い町だからこそ携帯電話は手放せません



# 飲料水個人施設の 災害復旧に5400万円



水源が枯渇した場合には、井戸による飲料水確保にも支援します

条例補正予算審査特別委員会（三田地久志委員長）では、  
 条例改正や補正予算を慎重に審査しました。  
 審査の結果、付託された10議案すべてを可決すべきと決定。  
 その後の本会議で、全会一致で原案のとおり可決しました。  
 委員会の審査の中からいくつかの質疑を要約してお伝えします。

**問** 飲料水個人施設の復旧補助の上限額と下限額を示せ。

**答** 事業費200万円を上限として、1割を個人負担とする。したがって、補助金180万円が上限額となる。

**問** 周知方法はどう考えているか。

**答** 町の広報とホームページへの掲載を予定している。



**飲料水**  
**対象事業費の下限は**  
**3万円から広く支援**

## 6月補正予算の状況

会計名	補正額	補正後の予算額
一般会計	△63億2549万円	140億1951万円
特別会計		
国民健康保険(事業勘定)	2万円	15億6018万円
介護保険	905万円	1億5260万円
簡易水道	1億6097万円	4億8707万円

台風第10号災害において被災した飲料水個人施設の復旧を支援します。  
 くわしくは、町上下水道課へ  
 (☎ 22-2111 内線213)

## 義援金 支給状況は 早期に支給する

**問** 全国から寄せられた義援金の総額と支給状況を示せ。

**答** 5月末現在で2億700万円の受け入れがあり、そのうち1億3500万円が被災者に配分されている。

**問** 今後の支給計画を示せ。

**答** まだ配分されていない7200万円については、県義援金の二次配分が6月中旬に決定見込みであることから、これにあわせて町義援金の配分委員会を開催し、早期に支給する方向で進める。

## 利子補給 積算の内訳は 300万円を30件分

**問** 被災者定住化住宅建設資金利子補給補助金9000万円の内訳を示せ。

**答** 意向調査の結果、新築を希望する方が58件あった。この約半分の30件分を見込んでいる。(補助金上限額300万円)

**問** 1件の利子補給額が300万円という場合、その年分を受け取るのではなく、まとめて補助金を受け取ることではないか。

**答** 利子補助金は長期ローンの利子の総額が300万円以上の場合、当該年度に300万円を一括で支給する。

## 改正の内容を 森林・山村 町の負担が1/8

**問** 森林・山村多面的機能発揮対策補助金(※)について、国の制度が変わるようだが、その内容を示せ。

**答** この事業は、平成25年度から始まり、28年度まで全額が国の補助だったが、29年度から町の負担が求められることとなった。町では、効果の高い事業と判断して、事業費の8分の1を町が補助することとした。

**問** 事業の見通しはどのようになっていくのか。

**答** 実施の期限については、今のところ平成33年度までの予定としている。

## 条例改正と補正予算の主な内容

- ◆復興産業集積区域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例  
現行の課税免除の指定適用期間を平成31年3月31日まで延長するものです。
- ◆被災者生活再建引越費用給付 490万円  
生活再建に係る引越費用を給付するものです。
- ◆地域情報基盤災害復旧工事 1億971万円  
光ケーブルの災害復旧工事を行うものです。
- ◆岩泉球場災害復旧工事 3億5000万円  
岩泉球場の災害復旧工事を行うものです。



森林の手入れは欠かせません

(※) 地域住民が森林所有者などと協力して実施する里山林をはじめとする森林の保全管理や山村地域の活性化に資する取組促進への支援。

# 一般質問

6月7日に一般質問が行われ、7人の議員が町政について質問しました。内容を要約して登壇順（質問順）にお知らせします。

なお、質疑全文を記録した会議録は、9月下旬ごろから町立図書館または役場各支所図書室で閲覧できます。

## 7人の議員が発言 ～質問内容～

### ●野舘 泰喜 (9 ページ)

- ・今こそ企業誘致活動の展開を
- ・学校統合ー必然性を掲げたらひるむなー

### ●三田地 久志 (10 ページ)

- ・岩泉ホールディングスの経営を聞く

### ●畠山 昌典 (11 ページ)

- ・スポーツ活動に対する支援策は
- ・スポーツ施設の整備は

### ●坂本 昇 (12 ページ)

- ・台風被害の工事発注計画は
- ・被災者の健康管理と周知徹底は

### ●林崎 竟次郎 (13 ページ)

- ・被災者の医療費等減免の継続を
- ・高校卒業まで医療費助成の拡大を

### ●畠山 和英 (14 ページ)

- ・台風災害から「町の形」をどう描く
- ・通行止め箇所などの早期整備を

### ●小松 ひとみ (15 ページ)

- ・岩泉らしい拠点施設を作るべき

## 農業委員会委員の 任命に同意

6月7日の定例会において、農業委員会法改正後の農業委員7人の任命に同意しました。任期は3年間で、任命される委員は次のとおりです。

佐藤 安美 (大川)	早川ケン子 (巖綿)	三田地泰正 (岩泉)	合砂 哲夫 (安家)	杉山 晶 (尼額)	武田 健 (中里)	工藤 幸雄 (有芸)
------------	------------	------------	------------	-----------	-----------	------------

## 阿部さんを推薦 人権擁護委員の候補者



あべ のりこ  
阿部 範子さん

人権擁護委員の候補者に小本の阿部範子さん(61)を推薦することになりました。

同委員は町が議会の意見を聞き、法務大臣に推薦します。

任期は法務大臣が委嘱した日から3年間です。





の だてやす き  
**野館泰喜 議員**

# 今こそ企業誘致活動の展開を

## 積極的戦略の構築と人員配置 伊達町長



施設の利活用の検討が必要です  
(閉校した中沢小学校校舎)

**問** 復旧・復興後の人口減少が大きな問題である。連続的な施策が必要だ。その内容は都市圏からの移住策か企業誘致による雇用拡大策に集約される。

そこで、本町における企業誘致活動について伺う。これまでの活動の実態と成果、その途上における問題点等の分析結果を示せ。

今の企業社会は、社会貢献活動が活発だ。この際、講演依頼とか企業ボランティアの募集等で災害によって高められた知名度を活用して誘致の入り口を作るべきだ。

**町長** これまでの実績は、昭和60年の岩手アライ株式会社の誘致に始まって、9社の企業が操業している。従業員の総数は6月1日現在で405人となっている。現在の課題は人材確保に苦慮している状況にある。

また、県北沿岸地域は県南地域と比較してアクセスが問題だが、岩手県の企業誘致担当課とも連携して情報収集に努めている。

今後は、復旧・復興事業に重点を置きながらも、三陸沿岸道路の開通等を勘案し、小本地域の振興と学校統合後の空き校舎等の利活用も考え積極的戦略の構築や専門員の配置に取り組む。

### 学校統合―必然性を掲げたらひるむな―

#### 当初計画に沿って協議実行

**問** これまでの統合議論では小川地区の4つの小学校すべてを廃校にし、新しい小学校を1つ創るということだった。残念な結果だと思う。優良な環境であるからこそ利用価値が高いことを認識するべきだ。必然性を掲げた場合は決してひるむことなく、意見集約に当たるべきと思うがどうか。

**教育長** 一定規模での学校運営が必要との考えで学校適正配置基本計画を平成27年3月に策定した。

その方針に基づき、4校ともPTA等との協議を進めてきた。その中で、児童数の減少が著しく、単独校の運営が困難との判断から国見小と中沢小を本年4月に門小に統合する結果となった。小川小学校においても、PTA等との共通認識に至り、時期、方法について協議しているところである。



み た ち ひ さ し  
三田地久志 議員

# 岩泉ホールディングス(株)の経営を聞く

## 秋ごろまでには方向性を示す

伊達町長



施設の建て替えの検討が必要です  
(龍泉洞温泉ホテル)

問 今回の台風災害では岩泉HD(株)の傘下3社が被災あるいは影響を受け、岩泉経済にとつてかなりの打撃があったと思われる。

この災害に限らず、発行済株式数の91%を保有する「岩泉町」としての経営責任も存在すると思われる。

また、傘下の社員、パート臨時、併せて311人の雇用は非常に大事であり、これからのかじ取り役が非常に重要な責務を負うと認識しつつ、今後の経営(運営)について聞く。

① 持ち株会社としての存続でよいか、あるいは経営統合すべきではないか。

② 将来の「岩泉町」を考え、岩泉HD(株)をさらに発展させるには、岩泉町の出資割合を下げていかなければならないと考えるがどうか。

③ 企業価値を上げるために、岩泉乳業へは原料確保の道筋を、龍泉洞温泉ホテルは、施設の建替えとトロン温泉導入が必要ではないか。

町長

① 親会社である岩泉HD(株)を純粋持ち株会社から、事業持ち株会社化し、また、子会社の統合等の検討も必要と考えている。事業持ち株会社に転換した場合における企業統治(コーポレートガバナンス)のあり方が大きな課題となる。代表取締役や執行役員のあり方と併せて検討し、秋ごろまでには方向性を示す。

② 町の出資割合の引き下げについては、株式を上場して町の所有株式を譲渡することで、完全民営化が図られるように取り組む。

③ 岩泉乳業(株)の原料確保は、既存農家の規模拡大支援と日量約8トンのメガファームを構想中であり、早期実現に向けて取り組む。

龍泉洞温泉ホテルの建替えとトロン温泉については、近年求められているインバウンドへの対応宿泊施設の整備と町民の健康増進は喫緊の課題であり、龍泉洞周辺の一体的環境整備と併せ、検討を再開する。





はたけやま まさのり  
**畠山昌典 議員**

# スポーツ活動に対する支援策は 効率的かつ実効性ある支援を 三上教育長



復旧が待たれるグラウンド（乙茂地区）

**問** 岩手県教育委員会によると沿岸児童の体力低下がみられ、大震災後の環境変化もその一因になっているとの調査結果が発表された。  
その対策として学校と家庭が連携した取り組みやスポーツ少年団の果たす役割の重要性などがあり、岩泉町の現状をみると団体数も団員も激減している。そのことにより他地域との合同での活動や地域スポーツクラブへの参加による時間的・経済的な負担が家庭や指導者にかかっており、町として出来る限りのサポートが必要な時期に来ていると思うが、町の見解を聞く。

**教育長** スポーツ少年団活動については、仲間との連帯や友情を育む観点から本町における社会教育・社会体育活動の核と捕らえ、その活性化につながる支援を行っている。

また、岩泉スポーツクラブでは、様々なスポーツに触れる機会を提供している状況である。

しかしながら、環境の変化から関係者の負担も増加していると推察されるので、今後の効率的かつ実効性ある支援を検討する。

## スポーツ施設の整備は

### 前向きに調査検討

**問** 昨年の台風により、それまで素晴らしい環境で町内外の多くの方々から喜ばれていた陸上競技場・サッカー場・パークゴルフ場が壊滅的な被害を受け現在に至っている。

同一敷地内にあるコテージ等の宿泊施設は今も使える状態にあり、これらを含む場内全体を有効活用するためにも各施設を整備していくべきと思うが、町の見解を聞く。

**町長** ふれあいらんの被災した各スポーツ施設は、町内外の皆様に愛され、復旧を望む声が多数寄せられている。

しかし、小本川の河川改修の区域に含まれ原型復旧は実現不可能と判断しているが、改修内容によっては使用可能な敷地が残ることも想定され、その内容に注視しながら前向きに調査検討する。



さかもと のぼる  
坂本 昇 議員

# 台風被害の工事発注計画は

## 本年6月から7月には公表する 伊達町長



整備計画が示されるのを待つ町道鼠入川線と月出の沢

**問** 平成28年台風第10号豪雨災害に係る各地域の道路・河川改修工事の見通しを住民に示すべきである。

**町長** 路線ごとに優先順位をつけながら順次進めているが、全ての完成には3年から4年の期間が必要である。

現在、発注計画及び工事完了の最終工期等を地区別、路線別で作成しており、6月から7月には公表できるように準備を進めている。発注計画がまとまり次第、きめ細かく周知をはかる。

### 被災者の健康管理と支援周知は

### 被災者に寄り添い支援活動

**問** 被災者の健康管理と精神ケア、支援制度の周知徹底について問う。  
支援にあたっては、相談窓口を設けているが、その課題と今後の対応はどうか。

**また、支援制度が、十分に理解されていない部分もあると思われるが万全か。**

**町長** 直近の調査では、将来の見通しに対する不安が高くなっている状況であり、そういった不安を抱える中で、「血圧値が高い」「眠れない」等という心身の症状が見られる。

被災者に寄り添いながら、復旧・復興の進展に伴い生じる様々な課題に対応し、支援活動を展開している。

また、「被災者支援連携会議」を設置し、より効果的・効率的な支援に努めている。

なお、支援制度の周知徹底については、被災者の見守り・相談支援事業をスタートさせ、個別訪問を行いながら、相談に応じている。

個別訪問にあたっては、相談支援シートを活用し、申請漏れの防止に努めている。

本年より「岩泉よりそい・みらいネット」による生活・相談窓口を設け、各種相談にも応じており、今後においても、関係機関等との連携を強化しながら支援制度の周知徹底に努めていく。

### その他の質問

▼国道455号二升石工区の片側通行渋滞解消について





はやしききょうじろう  
**林崎 竟次郎 議員**

# 被災者の医療費等減免の継続を 期間の延長を検討していく 伊達町長



健康管理に努めましょう

**問** 台風第10号豪雨災害から9カ月が経過し生活インフラの復旧事業が進んでいる。

そんな中、被災者との懇談でもっとも切実に訴えられるのが国保医療費・介護保険利用料の減免措置についてである。

町では被災者に係る減免措置は8月31日までとなっているが、12月31日まで継続すべきと思うがどうか。

**町長** 台風第10号豪雨災害の復旧・復興事業が、これから本格的に進められていく中であって、被災された方々に対する医療費等の負担軽減支援策の継続は、必要と認識している。

財政状況、近隣市町村の動向等を勘案し、町国保運営協議会、町介護保険運営協議会と協議を進め、期間の延長を検討する。

## 高校卒業まで医療費助成の拡大を 引き続き分析を進めていく

**問** いま、少子高齢化は日本全体の大きな課題となっており、当町もその対策に真剣に取り組まなければなりません。

これまで子育て支援策として子育て支援住宅の整備や、医療費助成を中学生まで拡大するなど取り組んでいるが、これをさらに高校卒業（18歳）まで拡大すべきと思うがどうか。

**町長** 町では、子育て支援の一環として、子育て支援住宅等の建設をはじめとする子育て環境の整備、岩泉高校通学支援、大学進学支援等の子育て世代への経済的な支援策を講じている。

高校卒業時までの医療費助成対象の拡大については、引き続き分析を進めていくが、現在、台風災害の復旧・復興事業に全力を傾注しなければならぬ状況であることから、今後、国の施策の動向を注視しながら、適切な実施時期を見定めていく。



はたけやまかずひで  
**畠山和英 議員**

# 台風災害から“町の形”をどう描く

未来永劫、発展するまちづくりを進める  
伊達町長



道路の復旧が待たれます（県道大川松草線）

**問** 町や被災者の復旧、復興その先の振興発展を見据え、町全域が甚大な被害を受けた町の姿を、より良い岩泉の「町の形」をどのように描いていく考えか。本年策定する「岩泉町災害復興まちづくり計画」をどう執り進めるか。策定スケジュール、スキームを示せ。

復興事業の目玉でもある現在整備中の「わさび加工施設」の製造計画は。日本一の産地であるわさび生産の現状・課題と今後の生産の見通しはどうか。

**町長** 災害復旧のみならず、さらなる発展を果たせるような希望の持てる復興を成し遂げる。町民の安全、安心な暮らし、幸せのために、これから未来永劫、町が発展、成長していくまちづくりを進める。

「岩泉町復興まちづくり計画」は、集落の形成、防災体制の強化、産業経済の再生を施策の柱に据え、6月から順次住民懇談会・説明会、復興計画検討委員会等を開催し9月をめどに策定する。

わさびの振興については、直近5か年を見ると300トン、1億円の生産高を維持し、新規就農者も10名いる。生産拡大の阻害要因はわさび洗浄の労力軽減、種苗生産の確立となっている。育苗・異物除去洗浄・急速冷凍・高次加工の各施設を整備、最終製品製造量は520トンの計画である。

## その他の質問

▼ 商工業への支援について  
▼ テレビ共聴組合施設、生活橋等の復旧支援について

## 通行止め箇所などの早期整備を

## 県道大川松草線は年度内復旧

**問** 改良整備が遅れている県道大川松草線の「本町～大広工区」事業の進捗よく状況はどうか。また、大広・長田間は崩落で台風災害前より通行止め。迂回路の町道は幅員狭小で大型車は通れず支障をきたしている。早期復旧がはかられるべきだ。

**町長** 「本町～大広工区」は、今年度は本町付近の拡幅工事、その後大広方面に延長する。工事計画は2年延長、平成31年度完了見通しである。現在、通行止めとなっている崩落箇所は6月復旧工事を発注、本年度中の開通予定である。

## その他の質問

▼ 国道340号の整備について など





こまつ  
小松ひとみ 議員

# 岩泉らしい拠点施設を作るべき

## 膝を交えて議論、方向性を探る 伊達町長



手しごと市での風景

**問** 先般配布された岩泉町合併60周年記念誌を読み、改めて岩泉町民の  
大いなる力強さに感心すると、共にこれからの町作りには、この文化の  
継承が希薄ではないかと懸念している。南部三閉伊一揆で村びとが知恵  
とちからを出し合って村の暮らしを守った先人の歴史を考え、気がつき  
昭和は激動の時代だとする「いわいずみふるさとノート」ができています。  
これと同様に今の岩泉は大変革の時である。住民の底力を想起し自信を  
持つて前に進むべきである。

今、若者たちが新しい感性で楽しく自由な祭りを始めている。町で策  
定した災害復興ビジョンは「みんなで創り共に育てる岩泉らしさ」であ  
る。

広大な面積を有する地域性にあっても「うれいら商店街」の役目は町  
の中心であり核である。今の時代にあつたクリエイティブな新感覚の拠  
点施設をぜひこの商店街に作るべきと考える。

集会、映画会、作品発表、産直販売にも活用出来る施設には空き店舗  
を利用するのが最善策と思うが、町長の考えを聞く。

**町長** 商店街の後継者の若者たちを中心とした活性化イベントや新しい  
企画は斬新で県内外から大きく注目されている。商店街の店舗をそのま  
ま利用したことで、より評価されているもので、このパワーはこれから  
の町の復興に向けた原動力となっていくものと確信している。

様々な用途に活用できる新たな拠点施設の整備には用地確保から快適  
で多目的な機能の検討が必要となるため、少し時間をいただき皆さんと  
膝を交えて議論、熟考し方向性を探っていく。

# 「会」開催報告

## テーマ1 災害復旧・復興、防災について

議会では議会改革の一環として平成24年度より「議員と語る会」を開催しています。今年度は、6月20日に岩泉高校、22日に岩泉商工会青年部とうれいら商店会、27日に一般（町民）の方と共に語り合うことができました。その内容をお伝えしながら、より良い町づくりを探っていきたいと思います。なお、次回は11月ごろに開催します。

### 岩泉高校

酪農農家も台風被害を受けた影響により、離農者が増え、岩泉乳業の復活を待っていても、いざ生産という時に生乳量が足りなくなると思う。町営牧場を建設してはどうか。芝のサッカー場と陸上競技場を直して欲しい。



岩泉高校生と

河川改修を踏まえて早急に皆さんが活躍できる場所を確保していきたい。

台風の際、情報が伝わらず、危険な目にあつた。改めて防災意識を高めて避難訓練や避難場所の確認等のシステムが必要。

町内会ごとで安全な場所を設定、確認したい。

河川改修工事等で土地が足りないので土地を広げてユニークな宿泊施設を作つて欲しい。

衛生電話を10世帯単位で配布できないか。通信無線機はどうか。費用対効果を考える

清水川の「ぼんぼり」街路灯を復旧してもらえないか。

### 商工会青年部 うれいら商店会

商店会の財産なので要望書を提出することを勧める。

災害を経験して岩泉町の強さを見た。自衛隊と子供たちとの交流を通じた「生きる力」を育みたい。自助、共助、自主防災をはかること。「なりわい再生緊急対策事業補助金」の支援をいただいたおかげで商売を続けることが出来た。うれいら商店街の歩道は補修するのかが。9月に応急処置をし、カラー舗装は3年後。中央公民館がなくて困っている。コミュニティ拠点として空き店舗を整備する考えはないか。是非とも請願に向けて動いて欲しい。防災スピーカーが聞こえない。

災害を経験して岩泉町の強さを見た。

自衛隊と子供たちとの交流を通じた「生きる力」を育みたい。

自助、共助、自主防災をはかること。

「なりわい再生緊急対策事業補助金」の支援をいただいたおかげで商売を続けることが出来た。

うれいら商店街の歩道は補修するのかが。

9月に応急処置をし、カラー舗装は3年後。

中央公民館がなくて困っている。コミュニティ拠点として空き店舗を整備する考えはないか。

是非とも請願に向けて動いて欲しい。

防災スピーカーが聞こえない。

### 町民（全地区）

尼額で沢からの土砂により自宅が被害を受けた。自分の土地に家を建てたいがいつになったら砂防ダム等は整備されるのか。

砂防ダムについては、尼額で整備予定はない。河川、沢については順番に復旧工事となる。今しばらくの我慢をお願いしたい。

大平の保健福祉館が流失した。コミュニティ再生には公民館的建物が必要である。地域住民で再度取り上げて検討し話し合いながら進めたい。

林道、農道の復旧の見通しはどうか。

3年をめどに優先順位をつけて順次進むこととされているが、災害査定採択以外は意見を踏まえて行政に訴えていく。

鼠入地区の被害は甚大なので早い復旧をお願いしたい。

河川の立木伐採は「減災」に繋がった。町民全体の意識を高めるべき。

自主防災を進めるために町に指導者・防



# 平成29年度

# 「議員と語る」

▼ 防災リーダーを設置すべき。

▼ 防災士となるためには費用がかかるので、岩泉型マイスター防災士が必要と思う。

議 町では防災リーダーの協議を進めている。地域振興協議会と連携を図って考えていく必要がある。

▼ 河川のカレキ処理を早くしてほしい。

▼ 小本地区5団体からの請願書に対して県の反応はあったか。

議 県知事に直接訴えたことで現地の声を聞き入れる姿勢が見えてきた。

行政が住民に寄り添った対応と感じている。

▼ これからの課題は、災害の検証を行い、適切な避難方法を見直すことが必要と考える。

議 防災計画の見直しを含め、防災に関わる専門的人材の育成やコミュニケーションづくりについて住民と共に考えていく必要がある。



幅広い意見がありました（商工会青年部、うれいら商店会）

## テーマ2

# 人口減少社会への対応について

### 岩泉高校

▼ 若者を無理に止めるより高齢者に住みやすい町をアピールしてはどうか。

▼ 幼児と遊んで思ったが、もつと外で遊ぶ場所が欲しい。

議 乙茂のグラウンド整備を要望している。新しい公園の要望も出して欲しい。

▼ 若者が戻ってくるには、町に新たな人材を活かす企業が不足している。新たな移住者をもつと呼び込むべき。

▼ 済生会岩泉病院に産婦人科がほしい。また、町の住まいの情報を持つ不動産業もほしい。

▼ 生徒が放課後に過ごす場所が少ない。

議 空き店舗を生かしたりして、いろんなイベントができる拠点施設を要望している。

▼ WiFi環境の整った施設が欲しい。観光地には不可欠な



真剣さが伝わってきます

▼ 地域をよく知らない。龍泉洞以外にもどんどん進めるようにはたらかさかける。

▼ 人口減少の目安と現状について知りたい。

▼ お見合いイベントやテレビ番組で町をもっと紹介し、ピンポイントで人を呼んではどうか。

龍泉洞近くにアスレチック施設が欲しい。

議 自然を生かした新しい魅力発信に努めたい。

商工会青年部  
うれいら商店会

- ▼人口減少はゆるやかにとどめたい。出る人を少なくして外から人を引っ張ること。住むところが無いのが問題。
- ▼町で空き地、空き家バンクを進めている。町のホームページで確認してほしい。
- ▼転出者との繋がりを作るべき。ふるさと納税者へも送りっぱなしではなくメッセージを入れるなどして繋げる仕組みを作るべき。
- ▼岩泉ファンをつなぎとめる宿泊クーポン、買物券などの取り組みが欲しい。
- ▼龍泉洞・三陸・共同パッケージでアピールすること。地域の活性化は観光を基準として広げるべき。



貴重な意見をいただきました

とってほしい。情報発信が弱いと感じる。災害の状況もふまえ人を呼び込むことを一緒に考えた。

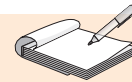
▼病院機能が不安である。覚悟と責任を持った医療プロジェクトを立ち上げるべき。

▼町の医師奨学生が2名いる。まずは医師の確保を進めている。

町民（全地区）

- ▼一人暮らし、高齢者の多い地域となったが老人力をどう發揮していくかがカギである。
- ▼町で産み育てるには性教育も含め、産科、婦人科が是非とも必要です。
- ▼地域医療確保として済生会病院へ1億3400万円の補助を決めた。共に努力していきたい。
- ▼特別委員会の議事録も図書館で閲覧できるようにしてほしい。
- ▼住宅が不足している。空き家は水周りの改修が不可欠。
- ▼人口減少は社会構造のせい。ここに住んで良かったと思える人を育てていきたい。
- ▼子沢山の家庭にあるが、みんながここで共に生活している。何も無いという人もあるが、仕事も山ほどあると思っている。

～アンケート結果より～



	岩泉	小川	小本	大川	安家	有芸	合計
参加者	34	3	6	6	5	0	54

1. 性別

男性	女性
47	7

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
14	1	4	5	3	13	10	4

3. 参加回数

1回	2回	3回	4回	5回
32	13	6	2	1

4. 開催時期

良い	悪い
51	3

5. 時間帯

良い	悪い
52	2

6. 開催場所

良い	悪い	各地
51	1	2

7. 内容

良い	悪い	どちらともいえない
43	1	10

「もつと地域を知りたい。そうすれば、もつと地域を好きになり岩泉愛が生まれるはず。」との高校生の言葉に、まちの明るい未来を感じました。

地域によりそれぞれ課題がありますが、議会では、町民の皆さまと一体となり全力で取り組んでいきます。  
（報告 広報広聴常任副委員長 小松ひとみ）



次回は11月頃に各地区へ伺います



# ひとこぼインタビュー

6月定例会の傍聴者数はのべ4人でした。傍聴された方の中から、小本の鷲塚由美子さんに傍聴した感想などをインタビューしました。



鷲塚 由美子さん  
(小本：59歳)

## よかったと思える町に

―傍聴のきっかけは。鷲塚 議会には以前から興味がありましたので今回開催されることを機に傍聴しました。

―傍聴された感想はどうでしたか。

鷲塚 議会だよりなどで議会のあらまははわかりますが、実際に議場に行き傍聴すると臨場感が違いました。私たち町民の代表として町政の場に立った議員の方がどのように民意を反映されているのかがわかりました。

―議員に対する要望がありますか。

鷲塚 台風10号の復旧復興、少子高齢化など多様な課題があるなか、今後議員の皆さんには町民が「この町に住んでよかった」と思う町になるようにご活躍いただきたいと思います。

―議会や町政に対する要望はありますか。

鷲塚 今回の傍聴で岩泉町議会をより身近に感じることができました。開催日時など今後も多くの町民や小中高校生が傍聴できる工夫をしてみてはいかがでしょうか。

### 第4回臨時会

第4回臨時会は5月19日に開かれました。この臨時会では、議案1件が提案され、全

### わさび急速冷凍施設の建設に2億円

会一致で原案のとおり可決しました。  
▼金額 2億628万円  
▼請負者 (株)西倉工務店  
▼工事名 わさび急速冷凍施設建設工事

### 第5回臨時会

第5回臨時会は7月11日に開かれました。この臨時会では、補正予算等10件の議案が提案され、全会一致で原案のとおり可決しました。

### 林道寄部沢線の災害復旧工事に2億円

▼金額 1億9548万円  
▼請負者 小野新建設(株)  
▼工事名 二級町道半城子線ほか災害復旧工事

- ▼金額 9612万円
- ▼請負者 (株)畑中組
- ▼工事名 一級町道早坂1号線道路災害復旧工事
- ▼金額 5400万円
- ▼請負者 横田建設(株)
- ▼工事名 林道寄部沢線災害復旧工事
- ▼金額 2億952万円
- ▼請負者 小野新建設(株)

- ▼金額 1億1340万円
- ▼請負者 小野新建設(株)
- ▼工事名 小野新建設(株) 財産取得 小型動力ポンプ付き積載車購入
- ▼金額 2981万円



小川小学校の「もみじ」は、

四季折々の顔を見せてくれます。春から夏の新緑。秋の紅葉。冬の雪化粧。どの季節もシャッターチャンスです。

夏晴れの夕方、寝綿パイパスを通ると、夕陽がまぶしいです。しかし、旧道からだと幻想的な姿が見られます。

皆さんも寝綿郵便局経由で「もみじ」をご覧くださいませ。いと思いません。



にしかわ けいすけ  
西川 啓介さん  
(岩泉 44歳)

町内の写真愛好家が撮影した本町の風景を紹介するコーナーです。

#### 編集後記

台風災害からの早期復旧・復興が望まれる中、本町では道路や河川の復旧、そして、瓦礫処理施設の建設工事や災害公営住宅用地の確保も始まり、目に見えて復旧が進みだしました。

なにより、自信なさそうに歩いていた二年生も、今や上級生の先頭に立って歩いています。彼らを見てみると希望の光が差し込んできます。

さて、議員改選により、6人の新しい委員で今号からスタートします。今回10年間続き町民の方が馴染んだ洋風の表紙から心機一転、装いも新たに和風に変えてみましたがいかがでしょうか。

これからも、今まで以上に「町民に親しまれる議会報」を目指し編集を行いますので、皆様からの提言、ご意見をお願いいたします。

(広報広聴常任委員長 八重樫龍介)

#### 広報広聴常任委員会

委員長	八重樫 龍介
副委員長	小松 ひとみ
委員	野舘 泰喜
	三田地 久志
	島山 和英
	島山 昌典



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会一問伐に寄与した紙」を使用しています。

